

# 2014年度の総括と次年度の目標

## 環境目標と実績(1)

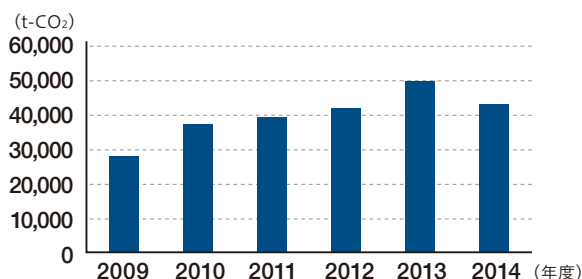
	主な活動テーマ	Plan▶▶▶
		2014年度目標
CO <sub>2</sub> 排出削減	居住時CO <sub>2</sub> 排出削減	新築戸建住宅における太陽光発電システム搭載率80%
		新築戸建住宅における燃料電池搭載率60%
		新築戸建住宅における「グリーンファースト ゼロ」比率60%
		リフォームでの取り組み 開口部の断熱リフォーム面積 5万1000m <sup>2</sup> 、 高効率給湯器の設置棟数 5200棟、 太陽光発電システム設置棟数 4000棟、 省エネバスリフォーム 5000セット(積水ハウスリフォーム(株)の取り組み)
		新規販売建売分譲住宅における環境共生住宅の割合100%
	賃貸住宅「シャームゾン」における太陽光発電システム設置率 60%	
事業活動、生産時のCO <sub>2</sub> 排出削減	出荷m <sup>2</sup> 当たりのCO <sub>2</sub> 排出量を ●生産にかかわるCO <sub>2</sub> …2013年度比1.0%削減 ●輸送にかかわるCO <sub>2</sub> …2013年度比1.0%削減 積和ウッド(株)浅井工場と「ベルバーン」製造ラインは除く	
	業務用車両の取り組み 低燃費車率96%、低排出ガス車率98%	
生態系保全	材料調達時の生態系への配慮	「木材調達ガイドライン」におけるS・Aランク木材比率95% ただし、併せてSランク木材70%を目指す
	住宅の植栽を通じた生態系保全	年間植栽本数100万本

## 環境に関する主な取り組みの積み重ね

### ① CO<sub>2</sub>排出削減

#### 新築戸建住宅のCO<sub>2</sub>排出削減実績

2009年に「グリーンファースト」を開始し、省エネや創エネ設備の導入によって、新築戸建住宅においてCO<sub>2</sub>排出量を削減し続けてきました。



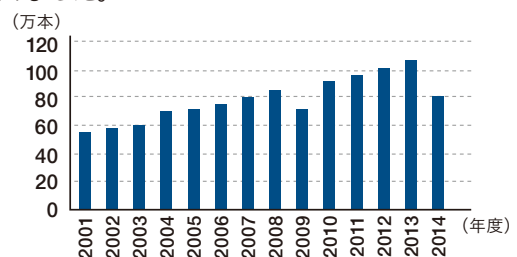
#### その効果

毎年のCO<sub>2</sub>排出削減効果は、延べ24万364t-CO<sub>2</sub>。これを樹木のCO<sub>2</sub>吸収量に換算して合計すると**1713万本分**に相当する削減効果を実現。

### ② 生態系保全

#### 年間の植栽本数

「5本の樹」計画を開始した2001年から、庭づくり等において、お客様にご提案しながら地域の生き物にとって活用可能性の高い樹種を中心とする植栽を進めました。



#### その効果

お客様と植えた樹木(中高木、低木)の数は累積**1100万本**を超えました。



Do▶▶▶	Check▶▶▶	Action▶▶▶	
2014年度の活動内容	参照ページ	評価	
		2015年度目標	
太陽光発電システム搭載戸建住宅76.3% (前年度比1.3ポイント増)	WEB	▲	搭載率80%を目指す
燃料電池搭載住宅49.4% (前年度比8.6ポイント減)	P.24	×	搭載率50%を目指す
58.5% (前年度比10.6ポイント増)	P.23	▲	「グリーンファーストゼロ」比率65%を目指す
開口部の断熱リフォーム面積 3万9379㎡、 高効率給湯器の設置棟数 3944棟、 太陽光発電システム設置棟数 2990棟、 省エネバスリフォーム 3956セット (積水ハウスリフォーム (株) の取り組み)	P.28	×	開口部の断熱リフォーム 5000件、 高効率給湯器リフォーム 4750棟、 太陽光発電システムリフォーム 3500棟、 省エネバスリフォーム 5000セット
独自のまちなみ評価制度「COMMON'S (コモンズ)」を創設し、取り組みを開始	P.32	-	「COMMON'S (コモンズ)」を推進
「シャームゾン」における太陽光発電システム設置率 49.7% (前年度比1.9ポイント増)	WEB	▲	「シャームゾン」における太陽光発電システム設置率 60%を目指す
出荷㎡当たりのCO <sub>2</sub> 排出量を ●生産にかかわるCO <sub>2</sub> …2013年度比3.0%削減 ●輸送にかかわるCO <sub>2</sub> …2013年度比1.3%削減	P.57	○	出荷㎡当たりのCO <sub>2</sub> 排出量を ●生産にかかわるCO <sub>2</sub> …2014年度比1.0%削減 ●輸送にかかわるCO <sub>2</sub> …2014年度比1.0%削減 ※当社工場分 (新設ラインからの排出分を除く)
低燃費車率95.7% (前年度比1.7ポイント増)、低排出ガス車率96.1% (前年度比1.8ポイント増)	WEB	▲	低燃費車率96%、低排出ガス車率98%
91%、S・Aの合計については初めて90%を超えた。Sランク木材についても71%となった	P.31	○	95% 併せてSランク木材75%を目指す
住宅着工戸数の減少を反映して、植栽本数も減少、81万本にとどまった	P.32	×	85万本

【自己評価の基準について】 ○目標を達成 ▲達成できなかったが目標に近付いた ×目標に向けた改善ができなかった

### 自社事業所での取り組み

本社のある新梅田シティ (大阪市) は、大阪の中心部ですが、「新・里山」と名付けた約8000㎡の空間に、「5本の樹」計画に基づく雑木林や水田、畑などが広がっています。また、建築家・安藤忠雄氏発案による高さ9m、長さ78mの緑化モニュメント「希望の壁」にもこのコンセプトを生かした四季折々の植物が茂り、国内外からたくさんの観光客や地域住民の憩いの場となっています。

### 社外評価

2014年には、公益財団法人都市緑化機構が主催する緑の都市賞で最上位の「内閣総理大臣賞」を受賞しました。

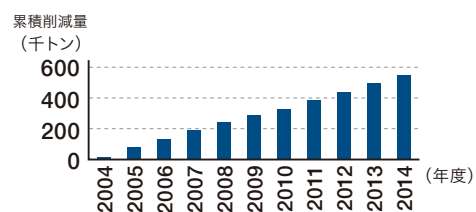


### ③ 資源循環

#### 施工現場ゼロエミッションによる資源リサイクル

2004年に建設業界で初めて「広域認定※」を取得。全国各地に分散している施工現場で発生した廃棄物を、都道府県の枠を超えて自社施設の資源循環センターへ回収し、100%の再資源化を行う「ゼロエミッション」を実施しています。

※回収リサイクルの仕組み整備等の内容が環境大臣から認められた場合に廃棄物処理法の規制が緩和される特例制度



#### その効果

「広域認定」に基づきリサイクルした廃棄物の量は累積で**54万トン**。

## 環境目標と実績(2)

	主な活動テーマ	Plan▶▶▶
		2014年度目標
資源循環	生産・施工時の資源循環	出荷m <sup>2</sup> 当たりの工場生産時廃棄物量を2013年度比1.6%削減 新設の陶版外壁「ベルパーン」製造ラインは除く
		グループ企業における廃棄物管理業務のシステム統合
		新築施工現場における廃棄物発生量(1棟当たり/145m <sup>2</sup> 換算):目安1200kg
その他	事務作業時の資源循環	グリーン購入率 95%
	化学物質の管理	鉄骨系主力商品での空気環境配慮仕様「エアキス」の一層の普及 賃貸住宅での「シャームゾン エアキス」における普及促進
	従業員による環境行動	夏季・冬季節電の取り組みを継続する

### 「エコ・ファースト企業」としての約束を着実に実行していきます

当社は2008年6月に環境省から「エコ・ファースト企業」として認定を受け、その後、着実に取り組みを進めてきました。2012年3月には、社会情勢の変化や取り組みの進捗を反映し、「温暖化防止」「生態系保全」「資源循環」という大きな枠組みはそのままに「エコ・ファーストの約束」を更新しました。2014年度も約束の実現に向けて積極的に取り組みました。



### 2014年度の主な取り組み

#### ① 家庭部門および事業活動に伴うCO<sub>2</sub>排出量削減を積極的に推進します



ネット・ゼロエネルギー住宅「グリーンファースト ゼロ」の拡販



賃貸住宅「シャームゾン」への太陽光発電システム搭載や  
既築住宅の断熱リフォーム工事の推進



全国5工場で合計設置容量6.7MWのメガソーラー稼働

#### ② 生態系ネットワークの復活を積極的に推進します



「5本の樹」計画の推進



緑化の専門家「グリーンエキスパート」の養成



「木材調達ガイドライン」の運用

#### ③ 資源循環の取り組みを徹底的に推進します



次世代型ゼロエミッションシステムの運用



「長期優良住宅」認定取得の推進



優良ストック住宅(スムストック)の普及推進

Do▶▶▶	Check▶▶▶	Action▶▶▶	
2014年度の活動内容	参照ページ	2015年度目標	
2013年度比0.9%削減	WEB	△	2014年度比1.8%削減
廃棄物適正処理システムと業務基幹システムの連携を取れるようにした	WEB	△	グループ全体での業務基幹システムの連携推進
1485kg	P.44	×	引き続き、目安として1200kg
グリーン購入率 92%事業所の温度差解消が進まず前年同様となった	WEB	×	グリーン購入率 95%
鉄骨系主力商品における空気環境配慮仕様「エアキス」の採用率が80% シャームゾンでの普及に向けて研修等を実施	P.38	○	社会性目標に移管
夏季・冬季を中心に節電の取り組みを継続事務所・展示場等において、使用電力量を2010年比で 夏季32.4%削減、冬季15.2%削減(冬季12,11月分を速報集計)	WEB	○	夏季・冬季を中心に節電の取り組みを継続

【自己評価の基準について】 ○目標を達成 △達成できなかったが目標に近付いた ×目標に向けた改善ができなかった

## 「エコ・ファースト推進協議会」の第3代議長会社に

2009年12月9日、環境省から環境先進企業として認定されている「エコ・ファースト企業」が、自主的に運営・組織する「エコ・ファースト推進協議会」が設立されました。かねて環境大臣に個別に宣言している「エコ・ファーストの約束」の確実な実践と、先進性・独自性に富む環境保全活動のさらなる充実強化等を「エコ・ファースト企業」が連携して強力で推進していくことが設立の主目的であり、2015年2月1日時点の加盟社数は37社です。

2014年4月からは「エコ・ファースト推進協議会」の第3代議長会社(議長:当社会長 和田勇)となり、環境先進企業をけん引していく立場となりました。

国民の環境意識向上にも寄与すべく、環境省や他の「エコ・ファースト企業」と連携し、協議会活動に取り組んでいます。



望月環境大臣(右)と当社会長

## 第5回「エコとわざ」コンクールを開催

「エコ・ファースト推進協議会」は、環境省の後援、全国小中学校環境教育研究会の協力を得て、6月1日から9月9日まで、全国の小中学生から創作ことわざ「エコとわざ」を募集しました(2014年で5回目)。

2014年は「国連ESD\*の10年」の最終年。11月には名古屋市でESDユネスコ世界会議が開催されたことなどから、「未来の地球環境を守るために何をすべきか」を考える機会を子どもたちや一般消費者に提供し、国民の環境意識の啓発に寄与したいと考え、本コンクールのテーマに掲げました。

応募作品1299点(過去最高)を審査委員会で厳正に審査した結果、最優秀賞の「環境大臣賞」をはじめ、加盟企業賞の一つとして「積水ハウス賞」を表彰しました。

\*Education for Sustainable Development (持続可能な開発のための教育)

「エコとわざ」積水ハウス賞作品

大好きな  
おばあちゃんは  
エコ先生



名古屋市立藤が丘小学校5年  
小林 さくらさん